

ずいそう

定年後の生活と趣味

立石 洋二



長年勤めた会社を定年で卒業し、その後関連会社で引き続き働いている。今の所は後2年ほどで再び会社員人生も卒業ということになるが、その後はどのような暮らしをしていくのか、家で毎日ゴロゴロと退屈な時間を過ごすことにならないように考えてみたい。やはり趣味の一つも持たないと、人生もつまらないように思えてならない。趣味とは一体何であろうか？余暇に好んで習慣的に繰り返しおこなう行為・事柄やその対象のことというのが定義であるが、自分が好きなもので長続きするものというのが一番であるように思う。良く多趣味という人もいる一方で、何の趣味も持たないという人もいる。趣味は殆どなくて仕事が趣味みたいなもので……などという人もたまにいるが、定年後はどのような生活を送るのか？と心配してしまう。まあ、人の心配をしても仕方が無いので、自分のことを考えてみた。

かくいう私の趣味は何であろうか？とふと考えると意外によくわからない。ピアノやギターを弾くこと？音楽を聴くこと？読書に関して老眼が進んでからは面倒で減る一方、スポーツはやるのも見るのも好きだが、ゴルフにしても趣味と言えるほどのレベルではないような気がする。寺社仏閣を巡って仏像を拝すること？美術館で絵画を鑑賞すること？花の綺麗な場所に出かけてウォーキングすること？色々な料理を作ること？興味のあること、好きなことをちょこちょこやっている感じで何が本当の趣味なのか考えても良くわからない。まあ、定年後も健康で元気で、好きなことができれば良いのだと思い、長く続けられる趣味が何だったのかは後にわかれば良いということにする。

若い頃にやっていたものを定年後に再び始めることは良くあることのようにだが、ピアノを弾くことは頭の体操にも老化防止にも良いと聞いたこともあり、小学生の頃に弾いていた曲にチャレンジしようと思いたち、60歳を超えたこの年になって久しぶりに弾いてみた。すると、いらいらするぐらいに指が思うようには動かず、以前には比較的簡単に弾けていた筈のものが、全くもって指が動かず、関節がバキバキと音を立てているのではないかと思うほど不自由で笑ってし

まう。無論ピアノを弾くといってもショパンやリスト等の難しい曲にチャレンジするほどの無謀な考えをもっているわけではないが、ランゲの「花の唄」やシベリウスの「樅ノ木」などの、ある程度弾けていた曲は弾いてみたいと思うが、いかんせん年齢と共に忍耐力と持久力が低下しており、これを続けることは難しいと感じたので趣味としては除外した方がよさそうである。多分、ギターについても同様な気がするのでこれも除外と考えた方が良さそうである。

ゴルフに関しては、多分年齢と共に飛距離が落ちて、スコアもどんどん低下の一方をたどって、えーい止めたとなるような気がしてならず、これも趣味としては長くは続きそうにない。

さて、料理はどうだろう。今でも毎週とは言わないが、休みの日には料理を作ることが多い。中華、洋食、日本料理等、その日の気分で種々のものを自分好みの味で作れるのが楽しいから、比較的長時間でも続けることが出来る。きっと建設業界でモノづくりをずっとやってきたので、仮設計画を考えるように料理の下ごしらえから仕上げまでを、同じようなモノづくりの感覚で作っているような気がする。男の料理と言うと、どちらかと言うと素材に凝って高いものにつくようなことを思う人も多いようだが、私の場合はどちらかと言えば、昔ながらの家庭料理が多く、野菜のお浸しや煮浸し、筑前煮やひじきの煮物、ポテトコロッケ、鯛のアラ煮、鯆の南蛮漬、肉じゃが、後は蕪の甘酢漬、茄子とミョウガの揉み漬のような簡単な漬物等を作ることが多い。たまに、マカロニグラタン、ピザ、ミートソース等も作ることはあるが、いずれもソースも手作りなので、時間がかかるため月に1回程度である。ピザなどは生地から作らないと気が済まないもので、これも結構時間を要する。ホワイトソースもバターと小麦粉を丁寧に弱火で加熱して、サラサラな状態にしてから、牛乳を加えてダマにならないように弱火で根気よく作るために時間がかかる。ピザソースもトマトの水煮缶を網目の細かいシノワ等の濾し器で濾して、みじん切りにした玉ねぎ・セロリ・人参をオリーブオイルにニンニクのみじん切りを加えて弱火で温めていた鍋で、丁寧に弱火で炒めた後に加えて、トロミがつ

くまで煮詰めて、最後に塩・胡椒・ドライバジル等を加えて完成である。まあ、これは実益も兼ねた趣味と言えるような気がするので、定年後も続けていくような気がする。

花が咲いている野山を散策するのは健康にも良いので、これもきっと続けていくのではないかと思う。何より日本らしい四季の移ろいや季節感を感じられることが何よりである。春を告げるフクジュソウ、カタクリをはじめとして、イカリソウ、ヤマブキソウ、シュンラン、エビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、キンラン、ギンラン等数え始めるときりないほど野山には種々の花々が咲き乱れている。上高地などに行けば6月になるとニリンソウ、エンレイソウ、ツバメオモト、サンカヨウ等の綺麗な花々に出会いながら、穂高連峰の景色も眺めた散策は時間を忘れるほどである。また初夏になればコイワカガミやノビネチドリ、アオチドリ等の花々にも出会える。何度行っても飽きない場所である。花の綺麗な場所はいたるところにあるが、上高地や乗鞍は自家用車の乗り入れ禁止もあり、自然が良く保たれている割にはアクセスも悪くは無いので、毎年のように季節を変えて訪ねてみたくなる。一方花

は綺麗で行ってみたいが、夫婦二人で行くには難しい場所もある。秋田の森吉山は花も多く訪ねたいが車で行くにも不便で、このような場所は旅行会社のツアーで行くことになるが、日程も花にぴったり合うとも限らず、何よりツアーが催行されないことも多く、また団体行動となるため自分達のペースで花を見ながらの散策とはならないのが頭の痛いところである。もっとも、そんなに遠くに行かずとも結構都会の近くで花も多いところは意外に多い。しかし、それが広まると直ぐに盗掘などで荒らされることも多く、最近の日本人のマナーの悪さに呆れることが増えてきたような気がする。交通費を上手く抑えれば、比較的金のかかることも少なく、老後の楽しみにはもってこいの趣味のような気がする。何より、夫婦二人の趣味がゴルフ以外は同じであるというのが奇跡的ではあるが非常にありがたい。同じ花を見ながらの散策でも夫婦二人で楽しみながら行けるのが何より幸せであるように思う。定年後も様々な趣味を女房と二人で共用したいものである。

——たていし ようじ 成和リニューアルワークス(株)
取締役常務執行役員 機械統轄部長——

